

The UNITWIN/UNESCO CHAIR PROGRAMME



in Research and Education
for Sustainable Development
at Okayama University

岡山大学 持続可能な開発のための研究と教育
UNITWIN/ ユネスコチェアプログラム

協力機関

岡山ユネスコ協会

岡山ESD推進協議会

NPO 法人 岡山県国際団体協議会 (COINN)

岡山市

岡山理科大学



岡山大学
大学院環境学研究科

岡山大学 持続可能な開発のための研究と教育 UNITWIN/ユネスコチェアプログラム

岡山大学ユネスコチェアは、国連持続可能な開発のための教育の10年プログラムを受け、持続可能な社会を創造するスキルを備えた人材を育成することを目標とする講座です。

本講座の活動を基盤として、岡山大学は各教育機関や地方行政、市民団体と協働し、外部機関の学識者・市民・学生の参加を推進し、アジア・アフリカ諸国の大学と手をつなぎ、将来的に地方・全国、地域的・世界的なレベルでの持続可能な社会をかたち創るための総合的な教育のあり方を示すことを目指しています。

岡山・瀬戸内地域において、持続可能な社会を形成するための学校教育、職業教育、及び大学教育等の「学校教育」と、それを補完する成人教育や地域的あるいは課外活動といった「学校外教育」を連携を行い、啓発活動や教育を推進していきます。また一方、岡山・瀬戸内地域と国際組織の情報を融合させ、日本と環太平洋地域、アフリカ発展途上国の大学協定を基礎に、ESDの理解と実施のためのシステムの構築を行うため、下記の目標を掲げています。

1. 国際・国連機関の環境部門に就職し、将来的に持続可能な社会形成への国際的貢献を行う
専門家の育成
2. 地域レベルでの持続可能な社会の実現のためのよりよい環境の構築活動に携わる専門家の育成
社会形成に貢献できる環境学
3. 地域レベル、国際レベルで、持続可能な社会構築に貢献するカリキュラムの作成
4. 大学間協働を通じた開発途上国における環境管理に関する技術と知識の移転を目的とした実践教育

関連部局：大学院環境学研究科
代 表：田中 宏二教授、岡山大学副学長
連 絡 先：700-8530 岡山県岡山市津島中 3-1-1
TEL/FAX：086-251-8925
E-mail：unesco@cc.okayama-u.ac.jp



持続可能な開発のための教育に関する地域拠点： 岡山 RCE とは

2004年に国連大学から「ESDに関する地域の拠点 Regional Center of Expertise on Education for Sustainable Development：RCE」の構築に関する提唱があったことを踏まえ、岡山地域のESD関連組織等の関係者が協議した結果、各組織・団体間等が連携を強化して、岡山地域の特性に応じたESDを効果的に推進していくためのプロジェクト（岡山ESDプロジェクト）に取り組むことにより、国連大学が提唱するRCEが構築され、「持続可能な社会づくり」に貢献していくことを目指しています。

International

国際交流協定



海外フィールド実習

中国内蒙古

中国半乾燥地に生育する植物の生育特性
砂漠化防止のための試験的植林

モンゴル国

砂漠化防止のための緑化技術開発
タイガ南限地帯の森林保全に関わる生態学的研究

ヨルダン国

エコパーク建設に関わる植物生理生態学的課題の解明

バングラデシュ

洪水と公衆衛生（バングラデシュ洪水調査）
ダッカ市の湖沼における水質調査
バングラデシュにおける洪水のリスクマネジメント

ベトナム

タムジャン・ラーグンにおける持続的資源管理
コミュニティ少数民族の定着化事業

スリランカ

津波被災地区の公衆衛生・廃棄物調査

トルコ

森林不法伐採による農耕地拡大と環境修復

南アフリカ共和国

ヨハネスブルク大学でのESD教育

ザンビア

農業振興による栄養改善と感染症予防



大学間協定

内蒙古農業大学、中国 (2000.2-)

同済大学、中国 (2006.3-)

ボゴール農科大学、インドネシア (2005.6-)

モンゴル国立農業大学、モンゴル国 (2005.11-)

カラデニース工科大学、トルコ (2002.5-)

フエ大学、ベトナム (2006.10-)

部局間協定

河北農業大学林学院、中国 (2006.6-)

フエ農林大学、ベトナム (2006.2-)

国立東華大学管理学院、台湾 (2005.4-)

Asia

ESD に関する地域の拠点 (RCE) との連携

岡山 ESD 推進協議会の運営に研究科の教員が参加するとともに、「おかやま ESD 国際会議」、公民館及びコミュニティ学習センター (CLC) の経験交流による ESD の推進に関するワークショップ等を共催し、市民の環境教育や公民館の取り組みを紹介することを通じて ESD の推進について経験や情報交換しています。

Kominkan サミットの開催

2007 年 10 月、アジア・太平洋地域でコミュニティ学習センター (CLC) の運営を支援する UNECO バンコクと連携して、日本の公民館の経験と教訓を CLC 担当者の運営・企画能力の向上に生かすためのワークショップを開催し、発展させていきます。岡山の公民館は ESD の推進への貢献を紹介し、これら公民館と CLC を通じた ESD の推進がサミットの主題の一つとなります。

国際公務員就職セミナー招待講演会

国連人口基金 (UNFPA) 池上清子 所長
国際連合人間居住計画 (UNHABITAT) 佐藤摩利子 専門官
国連人口基金 (UNFPA) 有森裕子 親善大使
ユネスコ (UNESCO) 大安喜一 プログラムスペシャリスト

Regional

ESD シンポジウム・セミナーの開催

NPO 法人岡山県国際団体協議会
「おかやま ESD 国際会議 2006」
国連大学学長 Hans van Ginkel 氏 招聘



持続的農村システムに関する日越ワークショップ
公開シンポジウム「中国乾燥地における緑化技術とその将来」
ワークショップ「中国モウソ沙地に生育する植物の生理生態学的特性」
招待講演「モンゴル国における持続的社會構築のための獣医学と生態学の動向」
招待講演「乾燥地における環境配慮型の生物生産技術開発」

国連機関インターンシップ

国際連合地域開発センター：地域開発国際研修運営補助 / UNCRD スタディキャンプへの参加
国連大学：UNU/ESD 鳥瞰型環境学エキスパート養成 UNU サマースクール
国連人口基金 東京事務所：「グローバルフェスタ JAPAN 2006」への参加と活動紹介
国連衛星機関 (UNOSAT) での短期インターンシップへの参加



中・高等教育における ESD カリキュラムの作成と実施

岡山大学での ESD 教育プログラムの構築
大学院生による中学生への環境学教育実習



UNITWIN/ ユネスコチェア

ユネスコ (国際連合教育科学文化機関: the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization)は、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関です。

ユネスコ教育局高等教育部が推進する UNITWIN (University twining and networking) 計画は、世界中の異なる地域の大学及び高等教育機関の教授、研究者、管理者が共同活動することで、相互間の密接な協力とネットワーク、その他関連する調整事項を通して、迅速な知識移転を促進することにより能力開発、人材育成への促進に資することを目的として 1992 年に設立され、その後の第 26 回 UNESCO の総会で採択されました。

ユネスコチェア(ユネスコ講座)の主任教授、教官、研究者を国際的に有能な多国籍の人材で構成し、その地域における高等教育の Center of Excellence に育てようとするものです。UNITWIN とユネスコチェアは密接な関係にあり、多くのユネスコチェアは UNITWIN の大学ネットワークの枠組みのなかで設置され、ネットワークの連絡調整役を担っていることが多い。

現在 597 のユネスコチェアと 66UNITWIN ネットワーク が 125 ヶ国 720 機関の関係するプログラム中に設立されています。ユネスコ高等教育局ホームページ中で、70 の分野にわたる各チェアならびにネットワークの概要その他の情報を入手することが可能です。

持続可能な開発のための教育 (ESD)

2002 年にヨハネスブルグ (南アフリカ) において開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議」において、「2005 年から始まる『持続可能な開発のための教育の 10 年 (DESD: Decade of Education for Sustainable Development)』の採択を国連総会に勧告する」ことが合意されました。これを受け、我が国より、第 57 回(2002 年)国連総会に「持続可能な開発のための教育 10 年」に関する決議案を提出。先進国と途上国の双方を含む 46 ヶ国の共同提案となり、満場一致で採択されました。ユネスコを主導機関とし、関連国連機関等と協力して、DESD の国際実施計画案を策定、各国は 2005 年までに DESD を実施するための措置をそれぞれの教育戦略及び行動計画に盛り込むことを検討することとなっています。

文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 『いのち』をまもる環境学教育

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、大学院における意欲的かつ独創的な教育の取組を重点的に支援する平成 17 年度より開始された文部科学省の事業です。本プログラムは、「生命(いのち)を衛(まもる)環境学教育」で、岡山に本部のある NGO の AMDA (アジア医師連絡協議会) や ESD の研修地域に指定された岡山の地域特性を生かして、海外研修などの機会を利用して国連機関など国際的に活躍できる環境の専門家の育成を目指すものです。





岡山市



岡山市は、山地と平野、旭川・吉井川の二大河川、瀬戸内海等の豊かな自然環境に恵まれた地域です。また高速交通網のクロスポイントに位置する中四国の中核拠点都市でもあります。

岡山地域では2002年、岡山市が市民団体とともに、ユネスコ本部に対し、「ESDの10年」に関するプログラムを提案したことをはじめ、「岡山ESDプロジェクト」として現在、各教育機関や行政、市民団体、事業所等が、ESDに関する様々な取組を進めています。

岡山大学 大学院環境学研究科 “アジアにおける「環境学」の教育研究拠点”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食糧、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的としています。

そんな中、2005年、環境学研究科は、これまでの自然科学、社会科学、人文科学および医学の各分野で分散して形成されてきた環境分野の学問を「文理医融合」の理念の下で再構築し、持続可能かつ安全・安心な社会実現のための「環境学」として体系化することを教育・研究の基本目的として設立されました。本研究科における教育課程の編成にあたっては、高度の専門性と総合性・学際性のバランスを考慮し、「循環型社会の構築」を共通の学問理念としながら、高度な専門的視点から環境分野の課題を考究する「社会基盤環境学専攻」、「生命環境学専攻」、「循環資源学専攻」の3専攻を設けています。また、総合性、学際性に関しては、博士前期課程と博士後期課程のそれぞれにおいて、他研究科の兼任教員をも含めた横断的な授業カリキュラムを設定するとともに、教育・研究における専門分野間の相互交流を積極的に進めています。

- ① 自然と人間の共生を図り、循環型社会の構築に資する学問追求の場としての研究科
- ② 複雑かつ広範な環境問題の解決を担う文理医融合型の研究科
- ③ アジアにおける環境学の国際的教育・研究拠点としての研究科

社会基盤環境学専攻

- 都市環境創成学講座
- 農村環境創成学講座

生命環境学専攻

- 環境生態学講座
- 人間生態学講座

資源循環学専攻

- 廃棄物マネジメント学講座
- 物質エネルギー学講座

